

# 自主課題研究

テーマ：再認方法による記憶力の違い

3年 017 亀澤 俊

担当教官：大岸 通孝

## 1、実施内容

被験者を何人か集めて、記憶の再認テストを行った。内容は最初に写真と線画を数枚提示する。次に EFT という簡単なパズルを行い、その後、最初に見せたものと新しく見せる写真と線画を提示して、それが見たことあるかどうかを判断してもらう。この結果をいくつかの要因に分けて分析した。

## 2、要因

再認テストを EFT の直後に行う人と 2 ～ 3 日後に行う人でわけた。また、再認テスト後に行った質問の回答内容でも違いを分析した。

## 3、実験結果・考察

### ・再認時間による違い

直後に再認テストを行った場合は、写真のほうが線画よりも大きく再認力に優れていた。しかし、2 ～ 3 日後に行った場合は写真のほうが優れていたが、差はほとんどなくなっていた。これは、日がたつと色の情報は失われやすいのと思われる。

### ・質問による違い

得意科目と「人の顔をよく覚えられるか」ということに、違いはなかったが、「夢をよく見るか」という質問内容に関しては多少の違いがでた。夢をよく見る人のほうが再認力に優れていて、これは夢をよく見る人のほうが事物をイメージ化する力に長けているのだと思われる。

## 4、感想

今回の実験では、自分の予想では写真と線画でも再認遅延時間による違いももっと明確に差があらわれると思っていたのだが、予想とは違った面白い結果が出たので、そういう意味ではいい実験だったと思う。今回の実験の結果を頭の片隅に入れておいて、将来開発などに携わったときには生かしていきたいと思う。